

Title: 「最後の謝辞」



中島 恒
 チョンマル・マシッ
 ソヨー日本の皆さん
 トゥキダカラ。

●最近のエントリー

シルクロード2
 (2006.09.04)

●アーカイブ

2006年10月
 2006年09月
 2006年08月
 2006年07月
 2006年06月
 2006年05月
 2006年04月
 2006年03月

●ブックマーク

学校法人 日本写真芸術専門学校
 NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE

OLYMPUS
 Your Vision, Our Future

RSS 2.0

最後の謝辞 > 2006年09月 アーカイブ

06.09.04

シルクロード2

現在はボルネオ島なんですが、旅も終わりが近付くにつれ、この旅が自分にとってどうだったのか問い直す様になりました。まだ終わった訳ではないので、別に結論を出す必要はないんですが、シルクロードをぶらぶらしてた時にこんな事がありました。

タシュクルガン自治区で、ヒツジを追いかいていた少年と話しました。彼はカタコトですが、英語を話します。ずいぶん長い間話をして、色々な事を聞きました。彼の父親は観光客相手にお土産を売っていて彼と母親が動物の世話をしています。周囲には7000mを越える山々が連なり、砂と岩で形成された大地に激しい風を吹きつけている過酷な土地なので、生活は楽そうには見えませんが、彼はここにいる限りは何の不足もないといえます。問題は彼らが伝統的に生業としてきた放牧と貨幣経済の進行です。彼はここで暮らしていれば不足はないが、必要な時に金が無いことが一番つらい、苦しいと言っていました。

この様な問題はいたる所で議論されているし、何も特別驚く事でもないかもしれないですが、実際に現地に行き彼らを知ると見方も変わります。

海外へ行き、知らない文化を自分の価値観で眺めているだけでは充分ではなく、違う価値体系がある事を他の様々な場面でも感じてきました。多様性こそが現実の姿であって、一つの価値基準だけで判断する事はできません。いい経験になったと思います。体調崩し気味ですが、あともう少し。なんとか半年やってこれた事も大きな自信になりそうです。

カテゴリ:

post by 中島 恒 | 日時: 2006.09.04 | [バナーリンク](#) | [コメント \(0\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)